

平成 25・26 年度 ACTR

舞鶴市の文化遺産調査と活用

上杉 和央

平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、地域貢献型特別研究費（ACTR）の事業として「舞鶴市の文化遺産調査と活用」（代表：上杉和央）の調査と研究を実施した。

ACTR は地域の課題を解決することで地域貢献を行うものである。舞鶴市からの提案では「地域の古文書・絵図・石造物などを調査することによって、市民に豊富な歴史遺産の情報を提供し活用への道筋をつけ」ることが地域の課題として存在しており、「資料の調査と体系的な研究をすることによって、これからの地域における資料の保存や活用を一緒に考えてもらいたい。また、近年地域史をまとめたという機運も大きいので、地元の人たちに資料の提供や活用方法を伝えていきたい。研究の成果を受けて、講演会をすることや企画展をすることによって、広く市民に歴史や文化遺産を活用した街づくりに参画してもらいたい」という点が求める成果として記載されていた。

このような点を受け、平成 25 年度は上杉を研究代表者として上田純一・東昇・菱田哲郎・向井佑介・松田法子（生命環境科学研究科）が研究分担者となり、研究協力者として舞鶴市郷土資料館の小室智子に協力を仰ぎつつ、調査をおこなった。平成 26 年度は東昇に代わり藤本仁文が分担者に加わり、また奥谷三穂（文学部歴史学科共同研究員）を研究協力者に迎えて文化遺産の活用の方向性を重点化した。

本 ACTR の内容は、大きく①資料（古地図・文書）調査、②集落調査、③石造物調査、④街道調査、⑤成果の還元に分けることができる。

1. 資料（古地図・文書）調査

舞鶴市域には江戸時代の丹後国や加佐郡域を記した絵図、また明治時代以降の地籍図など、豊富な古地図資料が残されている。また市域内の各地区に関する文書資料も存在する。今回、それらを改めて調査し、江戸時代の丹後を知る上で重要な絵図が残されていること、また地籍図については明治期の景観復原に有用であることを確認した。文書については、地域史理解に不可欠な資料が豊富にあり、その一部について翻刻作業を行った。

重要と思われた江戸時代の絵図 6 点については、専門業者による撮影を実施した（写真 1）。また、地籍図については現在も各地区の公民館等で所蔵されているため、所蔵の有無を調査し、許可をいただいた地区の計 20 点については本学の所蔵している A1 フラットベットスキャナーでスキャンする作業を行った。

なお、成果の一部については後述の舞鶴市郷土資料館での展示で紹介した。



写真1 近世古地図撮影風景
(平成25年11月12日 舞鶴市民会館)



写真2 和田地区での聞き取り風景
(平成26年9月27日)

2. 集落調査

平成25年度には堂奥地区、平成26年度には和田地区を対象として、聞き取り調査を実施した(写真2)。神社の祭礼や集落内の組織、生業の変化、さらに軍港設置前後の変化などを中心とし、主に近代以降の舞鶴の地域の暮らしを明らかにすることを目的とした。

堂奥地区、和田地区を選択したのは、文献史料や地籍図資料があり、地域内に寺社や石造物が残っている、有形の文化遺産に恵まれた地域であるためである。残された有形の文化遺産と地域の人々の記憶や伝承といった無形の文化遺産をつなぐことを重視した。調査においては地域の方々に大変お世話になった。記して御礼申し上げたい。

また、西舞鶴の吉原地区についても集落内を踏査し、堂奥や和田とは異なる漁村集落の状況について確認調査を行った。吉原地区についての詳細な調査は今後の課題である。

なお、成果の一部については後述の舞鶴市郷土資料館での展示で紹介した。

3. 石造物調査

石造物調査については、上記の集落調査と連動して実施した。堂奥にある山口神社、および和田の住民が氏子となっている高倉神社の石造物を対象とし、主要な石造物については実測と碑文の読み取りを行った(写真3)。これらの神社では石造物調査がまったく行われていなかったため、今回の成果は、地域に眠る文化遺産の掘り起こしに大いに役立つと思われる。

4. 街道調査

舞鶴には松尾寺があり、西国三十三所観音霊場の巡礼道が通過している。それはまた宮津や小浜への主要街道でもあった。今回、由良川以東 JR 松尾寺付近までの約22kmを対象に、踏査による街道調査を実施した(写真4)。街道に存在する石造物や付近の寺社、また周囲の景観上の特性などを確認していった。街道調査は以前に部分的に実施されているが、それらの調査時に見られた石造物が、今回は確認できなかつたり、逆に新たに発見したものもあった。



写真3 高倉神社での石造物調査風景
(平成 26 年 9 月 27 日)



写真4 街道調査風景
(平成 25 年 12 月 14 日)

5. 成果の還元

本 ACTR では、舞鶴市の要望にもあったように、地域の文化遺産の多面的な分析と同時に、その成果の還元を重視した。調査の全体的な成果については、文化遺産叢書第 10 集として次年度にまとめる予定であるが、個々の調査については、舞鶴市郷土資料館での展示 2 回（展示解説付き）、調査報告会 1 回、講演 3 回を実施するなかで還元に努めた。

○舞鶴市郷土資料館「平成 25 年度収蔵品展」(平成 26 年 2 月 15 日〔土〕～ 3 月 16 日〔日])

堂奥調査（聞き取り・文書・石造物）の成果の展示。展示作業に携わったほか、期間中、大学院生による展示解説も行った。

○舞鶴市郷土資料館企画展「丹後国絵図」展(平成 26 年 9 月 13 日〔土〕～ 10 月 26 日〔日])

国絵図調査の成果の展示。期間中、大学院生による展示解説も行った。

○調査報告会

平成 27 年 3 月 1 日に堂奥公民館にて、堂奥調査と古地図調査の成果について報告会を開催した。

○講演

・舞鶴市西図書館による地域文化セミナーにおいて「古地図の世界—近代編—」(平成 25 年 11 月 16 日)、「古地図の世界—近世編—」(平成 25 年 12 月 14 日)を上杉和央が担当し、古地図調査の成果の一部を披露した。

・舞鶴市郷土資料館による企画展記念講演会において「国絵図の世界」(平成 26 年 9 月 28 日)を上杉和央が担当し、古地図調査の成果の一部を披露した。